

AX からロボット への移行ガイド

公開済み 2022年1月31日



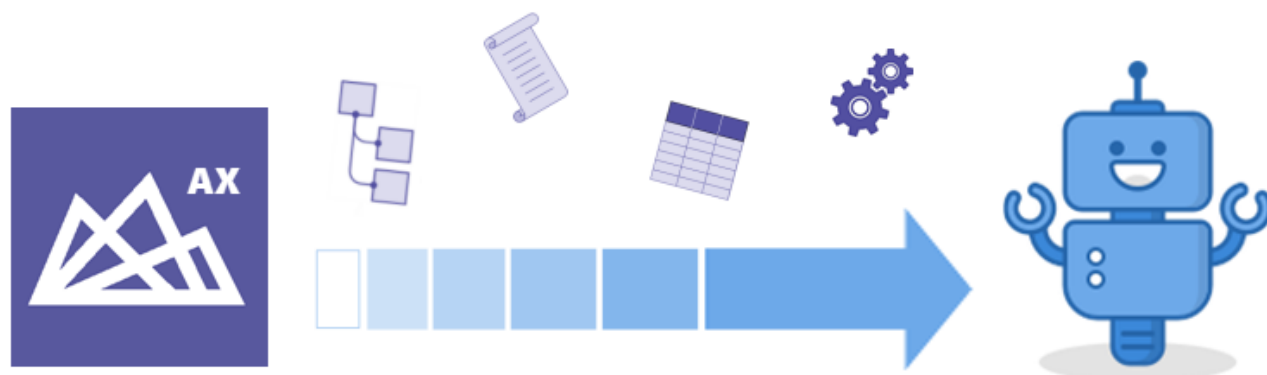
このページは意図的に空白のままにしています

目次

移行プロセスの概要	5
このガイドの対象読者	5
移行の実行: 推奨される方法	6
前提条件(移行を開始する前の作業)	7
ロボットで AX リポトリ構造を再作成する	11
推奨されるガイドライン	11
AXとロボットで構造の内容を比較する	12
ロボットを作成し、内容と自動プロセスを構造化する	13
AX 作業ディレクトリとライブラリ	14
次にすべきこと	14
スクリプトの移行	15
ロボットの後方互換性	15
AX からスクリプトをエクスポートする	15
必要な準備作業を実行する	16
スクリプトをロボットにコミットする(アップロードする)	17
ロボットでアナリティクス チェーンを複製する	18
次にすべきこと	20
データの移行	21
Analytics データ テーブルの再作成または移行	21
データ テーブルの再作成	22
データ テーブルの移行	24
ロボットでリンクされたテーブルを作成する	30
非 Analytics 関連ファイルをアップロードまたは移行する	30
次にすべきこと	32
ロボットで自動 AX プロセスを再作成する	33
各自動プロセスのロボット タスクを作成する	33
一時的にタスクを実行してテストする	34
スクリプト バージョンを本番モードにアクティブ化する	35

本番でロボット タスクを作成してスケジュールする	36
次にすべきこと	36
移行後の作業	37
移行に関する詳細	39
移行の利点	39
移行に必要な時間と工数	41

移行プロセスの概要



このガイドは、HighBond プラットフォームで Analytics Exchange(AX) からロボット アプリに移行する方法について説明します。このガイドは、ロボットでの必要な構造の設定、スクリプトとデータの移行、ロボットでの自動 AX プロセスの再作成、移行後の作業について説明します。また、移行の利点についても概説します。

AX からロボットに移行するにはさまざまな手順が必要ですが、このガイドに従うと、全体的な手順はそれほど難しくありません。

このガイドの対象読者

このガイドでは、現在、Analytics Exchange を使用して自動データ分析プロセスを実行していて、HighBond プラットフォームでこれらのプロセスをロボット アプリに移行する準備が整っていることを前提としています。このガイドでは、移行を検討する際にも有益な情報を提供します。

このガイドでは、クラウドベースのロボット エージェントではなく、オンプレミスロボット エージェントを使用して、独自のネットワーク上でデータを分析および処理することを計画していることを前提としています。クラウドベースのエージェントの使用は、AX をご利用のほとんどのお客様にとって現実的ではありません。

移行に関連する考慮事項の詳細については、"移行に関する詳細" ページ 39をご覧ください。

移行の実行：推奨される方法

1. 移行を開始する前に、"前提条件(移行を開始する前の作業)" 見開きページに従い、前提条件タスクおよび作業を完了する必要があります。
2. 前提条件が整った段階で、次の4つの手順で移行を実行することをお勧めします。
 - a. "ロボットで AX リポジトリ構造を再作成する" ページ 11
 - b. "スクリプトの移行" ページ 15
 - c. "データの移行" ページ 21
 - d. "ロボットで自動 AX プロセスを再作成する" ページ 33
3. 移行が完了した後に、"移行後の作業" ページ 37を確認し、必要に応じて移行後のタスクを実行します。

エンドツーエンド プロセスをすばやく理解する

エンドツーエンドの移行プロセスの主な段階は次のとおりです。組織によっては、AX での自動プロセスの設定方法に応じて、一部の手順が該当しない場合があります。

移行ステージ	手順	適用対象:
ロボットで AX リポジトリ構造を再作成する	HighBond でロボット アプリで空のロボットを作成します。 ロボットは、アップロードされたアナリティクススクリプト、Analytics データテーブル、および関連するファイルを格納するコンテナです。ロボットは、スケジュールされた、自動化されたタスクを実行するように構成するオブジェクトです。	すべての組織
スクリプトの移行	AX のアナリティクス スクリプトを中間の場所にエクスポートする	すべての組織
	スクリプトを構成して、ロボットで AX アナリティクス チェーンを複製する	AX でアナリティクス チェーンを使用する組織
	ロボットでスクリプトを該当するロボットにコミットする (アップロードする)	すべての組織
データの移行	AX の Analytics データテーブルに履歴データが含まれない場合は、ロボットでテーブルを再作成する	AX で Analytics データテーブルを使用する組織 (//DATA タグで作成されたテーブル)
	AX の Analytics データテーブルに保持する必要がある履歴データが含まれる場合は、Galvanize 移行スクリプトを使用して、AX からロボットにテーブルを移行する	AX で Analytics データテーブルを使用する組織 (//DATA タグで作成されたテーブル)

移行ステージ	手順	適用対象:
	非 Analytics 関連ファイルをアップロードまたは移行する	AX で非 Analytics 関連ファイルを使用する組織 (関連するファイルフォルダーに含まれるファイル)
ロボットで自動 AX プロセスを再作成する	ロボットで共有されたリンクされたテーブルを使用してテーブルを再リンクする	AX でマスターおよびリンクされたテーブルを使用する組織
	ロボットで自動プロセスを設定する: a. 開発モードで各自動プロセスのロボット タスクを作成します。 b. 一時的にタスクを実行してテストします。 c. タスクが正しく実行されたら、スクリプトを本番にアクティブ化します。 d. 本番で、自動プロセスのロボット タスクを作成およびスケジュールします。	すべての組織

反復アプローチを実行する

特に、現在 AX で大量の自動プロセスを実行している場合には、移行で反復アプローチを実行することをお勧めします。

- **並列で実行する** – 一定期間の間、AX とロボットを並列で実行します。
- **移行をパイロットする** – 最初は 1 つか 2 つの自動プロセスのみをロボットで複製し、移行をパイロットします。この一部のプロセスでのみ構造を再作成し、スクリプトとデータを移行します。
- **出力結果を比較する** – AX とロボットで同じプロセスを実行した出力結果を比較します。最初のプロセスがロボットで正常に動作したことが確認できたら、残りの自動プロセスについても、構造を再作成し、スクリプトとデータを移行できます。

前提条件 (移行を開始する前の作業)

移行の準備では、複数のタスクと作業を完了する必要があります。

タスク/作業	詳細
必須 ACL Robotics サブスクリプションとアクセス権を確認する	Galvanize の担当者にお問い合わせ、正しいタイプの ACL Robotics サブスクリプションと、すべての対象ユーザー用の十分なライセンスがあることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 必要な ACL Robotics エディション: Enterprise <div style="border-left: 2px solid blue; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> メモ 機能が制限されているため、ACL Robotics Professional Edition は AX の移行先としては適していません。 </div>

移行プロセスの概要

タスク/作業	詳細
	<p>移行を実行するために必要な、次の HighBond 管理者アクセス権があることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ Launchpad ロール: システム管理者 ◦ サブスクリプションの種類: Professional <p>メモ AX Server 管理者であることも前提条件です。</p>
<p>必須</p> <p>Launchpad およびロボットの管理者アクセス権も確認する</p>	<p>ACL Robotics サブスクリプションとアクセス権が確認できたら、HighBond にサインインし、次の管理者専用 の場所 にアクセスできることを確かめます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ Launchpad の HighBond ユーザーを追加および管理するページ: オプション > ユーザー] ◦ ロボットのグローバル設定: <ul style="list-style-type: none"> • 設定 > エージェント管理 • 設定 > ユーザー管理
<p>必須</p> <p>追加の Windows サーバーをプロビジョニングする</p>	<p>ネットワークで追加の Windows サーバーをプロビジョニングします。</p> <p>追加の Windows サーバーは、ロボットのデータ処理コンポーネントであるオンプレミス ロボット エージェントをインストールするためのものです。</p> <p>サーバーおよびオペレーティングシステム要件については、「オンプレミス ロボット エージェント システム要件」を参照してください。</p> <p>複数のオンプレミス エージェントを使用して、処理能力およびロード バランシングを強化する場合は、各追加のロボット エージェントで追加の Windows サーバーをプロビジョニングする必要があります。AX の自動プロセスを最初のロボット エージェント サーバーに正常に移行した後、この部分の移行を実行することもできます。現在 AX Engine Node で追加のサーバーを使用している場合は、このサーバーの目的を変更して、ロボット エージェントの追加インスタンスのインストールで利用できる場合もあります。</p> <p>注意 ロボット エージェントは AX Server と同じ Windows サーバーにインストールしないでください。リソースの競合と予期しない動作が発生し、トラブルシューティングが困難になるおそれがあります。</p>
<p>必須</p> <p>Windows サーバーにロボット エージェントをインストールします。</p>	<p>次のトピックの手順に従い、オンプレミス ロボット エージェントをインストールおよび構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. オンプレミス ロボット エージェントのセキュリティ b. ロボット エージェントのインストールまたはアップグレード c. ロボット エージェントで使用されるエンコードする文字 d. ロボット エージェントの構成
<p>省略可能</p> <p>1 つ以上の追加の Windows サーバーで、1 つ以上の追加のロボット エージェント インスタンスをインストールする</p>	<p>ロボット エージェントの最初のインスタンスをインストールしたときの手順を使用します。</p> <p>詳細については、「ロボット エージェントのインストールまたはアップグレード」を参照してください。</p>

タスク/作業	詳細
	<p>ヒント</p> <p>最初に単一のサーバーに単一のロボット エージェントをインストールすることに集中します。この最初のインストールが正常に動作した後、マルチエージェント クラスターを設定できます。</p>
<p>強い推奨</p> <p>オンプレミス ロボット エージェントが動作していることを確認する</p>	<p>「ロボットエージェントのテスト」を参照してください。</p>
<p>必須(該当する場合)</p> <p>ロボット エージェントがインストールされているサーバーに Direct Link をインストールする</p>	<p>AX で Direct Link を使用して SAP データにアクセスしている場合は、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロボット エージェントで動作するように Direct Link をインストールする ○ Direct Link ではなく、SAP 版 ACL コネクタ(SAP コネクタ) の使用に切り替える <p>SAP への接続を参照してください。</p> <p>メモ</p> <p>移行で反復アプローチを実行し、自動プロセスの一部で SAP データのインポートが必要ない場合は、移行後のタスクとして Direct Link をインストールできます。</p>
<p>強い推奨</p> <p>ロボット アプリを理解する</p>	<p>最初に時間をかけてロボット ユーザー インターフェイスとワークフローを理解しておく、移行をスムーズに進めることができます。</p> <p>ロボットを理解するための最も簡単な方法は軽量のチュートリアル「ACL Robotics の基本」を実行することです。</p>

このページは意図的に空白のままにしています

ロボットで AX リポジットリ構造を再作成する

重要

前提条件タスクを完了した場合にのみ、移行を進めてください。詳細については、"前提条件(移行を開始する前の作業)" ページ 7を参照してください。



AX のスクリプトとデータを移行するための最適なアプローチは、移行を開始する前に、移行先の構造を設定することです。移行する前に各ファイルの移行先を正確に把握しておく、移行がよりスムーズになります。移行する内容が多いほど、移行先の整備が重要になります。

推奨されるガイドライン

AX とロボットはいずれも、リポジットリの内容の構造化において一定の柔軟性を備えています。最終的には、組織のビジネス プロセスに最適な方法で自由に内容を構造化できます。

- 1 つの AX フォルダーを 1 つのロボットに対応させる

単一の Analytics プロジェクトのスクリプトとテーブルで単一の AX フォルダーを使用している場合は、その 1 対 1 の関係を継続できます。ロボットでは、AX フォルダーの代わりに、**ロボット**というコンテナを使用します。ロボットで内容を構造化する方法については、以下で詳細に説明します。

- 反復アプローチ

一度にすべての AX リポジットリ構造を再作成する必要はありません(ただし、先に進む準備ができている場合はこの手順も可能です)。最初にロボットで 1 つか 2 つの自動プロセスだけを複製して移行をパイロットしている場合、必要なのはこのプロセスの構造の再作成だけです。

- 依存関係を考慮する

自動プロセスの一部は最初に完了した他のプロセスに依存するかたとえば、データソースからデータをインポートするプロセスの後に、そのデータを分析する後続のプロセスが存在する場合があります。反復アプローチを実行する場合は、論理的な順序に従い、親プロセスを最初に複製してから、依存するプロセスを複製することを確認してください。

- 整理する

移行は、リポジトリの構造を見直す絶好の機会です。一部の領域で混乱を招いたり効果が低下したりしていないか一部のフォルダーの内容をマージすべきか、他のフォルダーの内容を分割すべきか

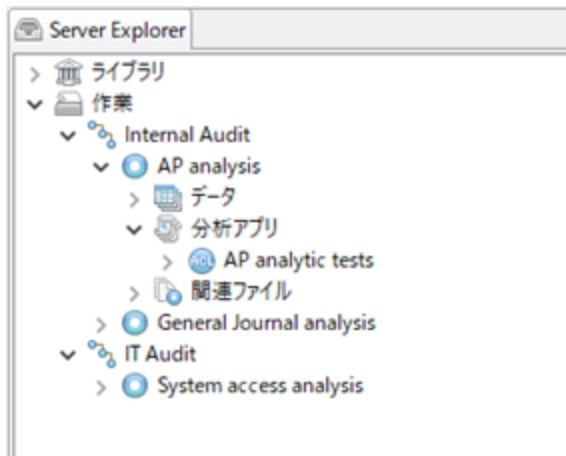
- 不要な内容を移行しない

不要な古い内容は移行しないでください。

AX とロボットで構造の内容を比較する

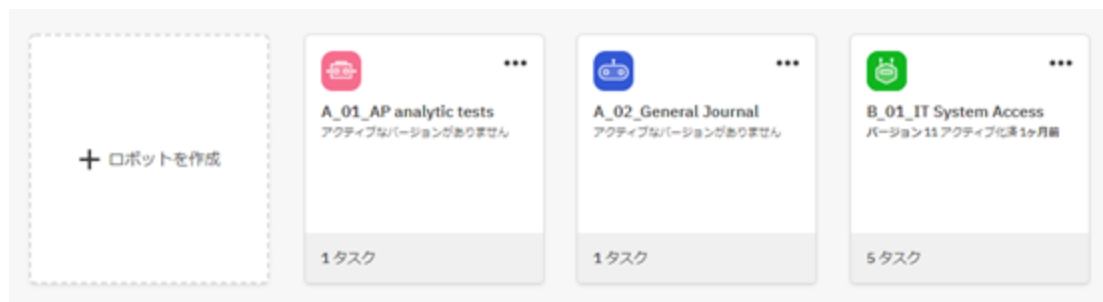
AX の方法

AX は従来の展開可能なツリービューを使用して、複数レベルの階層で内容を構造化します。コレクションとフォルダーは、階層の 2 番目と 3 番目のレベルを構成する組織のコンテナです。フォルダーには、アナリティクス スクリプト、Analytics データ テーブル、非 Analytics 関連ファイル(Excel スプレッドシートなど)が含まれます。



ロボットの的方法

現在、ロボットは、ロボットと呼ばれる単一レベルの組織コンテナを使用して、ダッシュボードにグリッドビュー形式で表示します。各ロボットには、AX と同じ内容を整理する複数のタブがあります。



AX とロボットの 内容とプロセスの場所

次の表は、AX の内容とプロセスの場所を対応するロボットの場所にマッピングします。

内容またはプロセス	AX の場所	ロボットの場所
リポジトリ	Server Explorer ツリービュー	ダッシュボードのグリッドビュー
組織コンテナ	コレクション > フォルダー	ロボット
アナリティクス スクリプト	フォルダー > 分析アプリ > 分析アプリ	ロボット > スクリプト パージョン タブ
Analytics データ テーブル	フォルダー > データ	ロボット > 入力/出力タブ > その他の テーブルセクションまたはリンクされた テーブルセクション
Excel や *.csv などの関連するファイル	フォルダー > 関連ファイル	ロボット > 入力/出力タブ > ファイルセ クション
アナリティクス ジョブまたはロボット タス クを実行またはスケジュールする	実行またはスケジュールダイアログボッ クス	ロボット > タスク タブ
アナリティクス ジョブまたはロボット タス クの状態を表示	ジョブの状態 ウィンドウ > アナリティクス ジョブ タブ	ロボット > タスクの実行タブ
出力結果の詳細を表示	プロパティ ウィンドウ > アナリティクス ジョブの詳細タブ	ロボット > タスクの実行タブ > タスクの 実行詳細 サイド パネル

ロボットを作成し、内容と自動プロセスを構造 化する

ロボットで組織の内容を構造化する方法に関係なく、内容を格納し、自動プロセスを整理するための多
数のロボットを作成する必要があります。

ロボットで AX リポジトリ構造を再作成する

まず、1つか2つのテスト ロボットを作成するか、現在の AX リポジトリのすべての内容とプロセスを格納できる完全なロボットのコレクションを構築できます。ここでは、まだ AX のスクリプトとデータを移行していないため、ロボットは空です。

ロボットの作成方法の詳細については、「[ロボットの作成と管理](#)」を参照してください。

1. Launchpad ホームページ(www.highbond.com) の **自動化**]の下で、ロボットアプリをクリックします。
サインインしていない場合は、HighBond にサインインする必要があります。
2. ロボットのダッシュボードから **ロボットを作成**]をクリックします。
3. アイコンを選択し、ロボット名を入力します。

メモ

"\$"、"€" など、ロボット名のいずれの場所にも通貨のシンボルを使用しないでください。

4. 省略可能。 **説明**]フィールドで、他のユーザーがロボットの動作を理解できるよう、ロボットについて説明します。
5. **ロボットを作成**]をクリックします。
ロボットは、作成されると、ダッシュボードに追加されます。
6. ロボットで組織構造を構築するための必要な追加のロボットを作成します。
移行で反復アプローチを実行する場合は、この時点で必要なロボットのみを作成できます。すばやく簡単に新しいロボットを作成し、いつでも追加のロボットを作成できます。

AX 作業ディレクトリとライブラリ

AX リポジトリには、**作業ディレクトリ**と**ライブラリ**という2つの別個の領域があり、作業中の内容とより永久的な管理者が制御する内容を分離できます。ロボットにはこのような分類がありません。代わりに、1つ以上のロボットを構成し、ロボット管理者にのみアクセスを制限したり、特に指定した標準ユーザーにのみアクセスを制限したりできます。制限されたロボットへのアクセス権がないユーザーには、ロボットが表示されません。ただし、共有テーブルを設定して、制限されたロボットのデータへのアクセスを提供することもできます。

詳細については、「[ロボット アプリのアクセス許可](#)」と「[データテーブルの共有とリンク](#)」を参照してください。

次にすべきこと

1つ以上の自動プロセスを含むロボットを作成したら、スクリプトの移行を開始できます。"スクリプトの移行" ページ 15

スクリプトの移行

重要

スクリプトの移行は、移行の前の段階を完了した場合にのみ行ってください。詳細については、「ロボットで AX リポジトリ構造を再作成する」ページ 11 を参照してください。



ロボットで再作成する AX の各自動プロセスについて、関連するスクリプトを移行する必要があります。すべてのアナリティクス スクリプトとサブスクリプトまたはヘルパー スクリプトを移行する必要があります。

直接 AX からロボットにスクリプトを移行することはできません。自分のコンピューターなど Analytics がインストールされている中間の場所に AX のスクリプトをエクスポートする必要があります。必要な準備作業を完了した後に、中間の場所からロボットにスクリプトをコミット (アップロード) します。

ロボットの後方互換性

一般的に、ロボットは、可能なかぎり AX との後方互換性を維持するように設計されています。ほとんどの AX スクリプトは修正せずにロボットで動作します。

AX 固有の設計に依存するスクリプトは調整する必要があります。例：

- AX 運用データベースにアクセスし、ジョブ スケジュールまたはログを読み取るスクリプト
- ロボット エージェント サーバーでは無効なサーバー リソースへの絶対パスを含むスクリプト

ロボットで使用するためにアナリティクス スクリプトを調整する際にサポートが必要な場合は、Galvanize サポートまでお問い合わせください。

AX からスクリプトをエクスポートする

移行を開始するには、**[エクスポート]** オプションを使用して、AX からスクリプトをエクスポートします。スクリプトは、スクリプトを含む分析アプリにエクスポートされます。エクスポートされた分析アプリはそれぞれ、エクスポート先で個別の Analytics プロジェクトになります。

この手順では、中間の場所として自分のコンピューターを使用することを前提としています。

1. エクスポートされたスクリプトを保存するためのフォルダーをコンピューターで作成します。
2. AX Server Explorer で、エクスポートするスクリプトを含む分析アプリを選択します。

Ctrl キーを押しながらクリックすると、同じ分析アプリ親フォルダーで複数の分析アプリを選択できます。親フォルダーを選択すると、フォルダーのすべての分析アプリをエクスポートします。

3. [ファイル > エクスポート] を選択します。
4. [エクスポート] ダイアログボックスで、両方のオプションが選択されていないことを確認します。
 - エクスポートしたファイルで作業しますか?
 - 選択した定義と一緒にデータ ファイルをエクスポートする
5. [参照] をクリックして、スクリプトを保存するために作成したフォルダーを選択し、[OK] をクリックします。
6. [OK] をクリックして、分析アプリをエクスポートします。

スクリプトは分析アプリの指定した場所にエクスポートされます。各分析アプリは Analytics スクリプトに変換されます。

7. 移行する準備が完了したその他のスクリプトにも同じ手順を繰り返します。

リンクされたアナリティクス スクリプト

AX とは異なり、ロボットはリンクされたアナリティクス スクリプトをサポートしません。AX でリンクされたアナリティクス スクリプトを使用する場合は、マスター アナリティクス スクリプトをエクスポートしてから、必要な各ロボットにコミットします。

必要な準備作業を実行する

次の場合、AX からエクスポートした後に、スクリプトをロボットにコミットできます。

- 自動プロセスに関連付けられたすべてのスクリプトが単一の Analytics プロジェクトにある
- 自動プロセスで連続で実行する必要があるすべてのアナリティクス スクリプト：
 - 適切な英数字の命名規則を使用する
 - 適切なアナリティクス タイプである(導入されている場合)

アナリティクス チェーン

AX とは異なり、ロボットはアナリティクス チェーンをサポートしません。アナリティクス チェーンを使用する場合は、スクリプトをロボットにコミットする前に準備作業を実行しなければならない場合があります。詳細については、「ロボットでアナリティクス チェーンを複製する」 ページ 18 を参照してください。

スクリプトをロボットにコミットする (アップロードする)

自動プロセスに関連付けられたすべてのスクリプトが単一の Analytics スクリプトに含まれ、適切な名前が付けられると、スクリプトをロボットにコミットできます。

スクリプトをコミットすると、スクリプトがローカル環境からクラウドベースのロボット アプリにアップロードされます。スクリプトを同じロボットにコミットするたびに、新しいバージョンのスクリプトがスクリプト履歴に作成されるため、「アップロード」ではなく、「コミット」という用語が使用されます。

詳細については、「[Analytics からロボットへのスクリプトのコミット \(アップロード\)](#)」を参照してください。

1. コミットするスクリプトを使用して、Analytics プロジェクトを開きます。
2. Analytics メイン メニューから、**ファイル > スクリプトのコミット**]を選択します。

エラーメッセージが表示される場合は、プロジェクトの 1 つ以上のスクリプトで、アナリティクス ヘッダーまたはスクリプト構文に問題がある場合があります。

詳細については、[Analytics およびロボットにおけるスクリプトの開発ワークフロー](#)を参照してください。

3. 必要に応じて、**送信先の選択**]ダイアログボックスで、該当する HighBond インスタンスをダブルクリックします。

ロボット コレクション]と既存のロボットの一覧が表示されます。

4. ロボットのリストで、スクリプトをコミットするロボットを選択し、**OK**]をクリックします。

スクリプトを含む Analytics プロジェクトと既存ロボットが関連付けられ、次回以降のコミットでロボットを手動で検索する必要がなくなります。

5. コミットされたスクリプトを説明する簡潔なコミット メッセージを入力し、**OK**]をクリックします。

ロボットでは、開発モードでスクリプトがコミットされます。

6. **スクリプトのコミットが成功しました**]ダイアログボックスで、2 番目のリンクをクリックして、ロボット アプリで新しくコミットされたスクリプトを調べます。

スクリプト バージョン]タブが開き、コミットされたバージョンのスクリプトが表示されます。

7. スクリプト バージョンを選択します (**vn**) 。

{バージョンの詳細}]サイド パネルが開きます。 **スクリプト バージョンの変更**]の下に、個別のアナリティクス スクリプトと補助スクリプトの名前が一覧表示されます。

8. Analytics で、**OK**]をクリックし、**スクリプトのコミットが成功しました**]ダイアログボックスを終了します。

ロボットでアナリティクスチェーンを複製する

メモ

このセクションは、AXでアナリティクスチェーンを使用する場合にのみ該当します。

AXとは異なり、現在、ロボットは、リポジトリのアナリティクススクリプトを連続して実行されるアナリティクスチェーンに組み立てることをサポートしていません。ロボットで一連のアナリティクススクリプトを連続して実行するには、次の2つの手順を行う必要があります。

- 単一のロボットにアナリティクススクリプトを含め、単一のタスクを作成してスクリプトを実行する
- スクリプト名、アナリティクスタイプを使用して、スクリプトシーケンスを作成する

単一のロボットにアナリティクススクリプトを含める

単一のロボットに連続して実行するアナリティクススクリプトを含めます。

単一のロボットにスクリプトを含めるには、まずすべての関連するスクリプトを単一のAnalyticsスクリプトに含める必要があります。スクリプトをスクリプトバージョンという1つのバンドルとして、Analyticsプロジェクトからロボットにコミットします。

スクリプトが単一のロボットにコミットされたら、単一のタスクを作成して一連のアナリティクススクリプトを実行します。

関連付けられたスクリプトを単一のAnalyticsプロジェクトに含める

単一の自動プロセスに関連付けられたスクリプトが2つ以上のAnalyticsスクリプト間で配布される場合は、ロボットにコミットする前にスクリプトを単一のプロジェクトで統合する必要があります。この状況は、アナリティクススクリプトがAXのアナリティクスチェーンの一部である場合に生じる可能性があります。

1. 自動プロセスに関連付けられたすべてのスクリプトを含めるために使用するAnalyticsプロジェクトを開きます。
2. ナビゲーターの **総覧** タブで、ツリービューの上部にあるプロジェクト名を右クリックし、**別のプロジェクトからコピー > スクリプト** を選択します。
3. **プロジェクトファイルの場所** ダイアログボックスで、スクリプトのコピー元となるAnalyticsプロジェクトを探して選択し、**開く** をクリックします。
4. **インポート** ダイアログボックスで、次のいずれかの手順を行って、1つ以上のスクリプトを **インポート先 <プロジェクト名>** リストに追加します。
 - スクリプトをダブルクリックする。
複数のスクリプトを
 - **Ctrl** キーを押しながらクリックし、右矢印ボタンをクリックする。
 - **すべて追加** をクリックして、すべてのスクリプトを追加します。

5. **[OK]**をクリックして、コピー先のプロジェクトにスクリプトをコピーします。
プロジェクト内に同じ名前のスクリプトが既に存在する場合は、コピーしたスクリプト名の末尾に増分数字が付けられます。
6. 宛先のプロジェクトに含める必要がある他のプロジェクトのスクリプトでもこの手順を繰り返します

スクリプト名、アナリティクスタイプを使用して、スクリプトシーケンスを作成する

スクリプト名

ロボット タスクでは、Analytic スクリプトは名前の英数字順に並べ替えられ、順番に実行されます。このため、任意の実行シーケンスを作成するようにアナリティクス スクリプト名を指定してください。

たとえば、シーケンスの最初のスクリプトはプレフィックス A_01 を使用し、2 番目のスクリプトは A_02、B_01 などのようにすることができます。プレフィックス体系を構築すると、追加のスクリプトを後から挿入することが容易になります。サブスクリプトまたはヘルパー スクリプトには、連続命名要件は適用されません。

メモ

ロボットではスクリプト名を変更できないため、ロボットにコミットする前に、Analytics のすべてのスクリプト名が正しいことを確認してください。

アナリティクスタイプ

シーケンスをさらにわかりやすくするために、任意でアナリティクス スクリプトのタイプを指定できます。タイプを指定すると、スクリプトがタスクの個別の領域にグループ化されます。この領域は次のように並べて表示され、順番に実行されます。

- インポート
- 準備
- 分析

各領域では、スクリプトが英数字順に並べ替えられます。スクリプト名に関係なく、タスクは領域内のすべてのスクリプトを実行してから、次の領域に進みます。


詳細については、「[ANALYTIC タグ](#)」を参照してください。

アナリティクス スクリプト名を変更し、実行シーケンスを作成する

2 つ以上のアナリティクス スクリプトを順番に実行する場合は、任意の実行シーケンスを作成するように名前を指定する必要があります。詳細については、「ロボットでアナリティクス チェーンを複製する」前のページを参照してください。


メモ

アナリティクス ヘッダーで指定されたアナリティクス スクリプト名は、ロボットで使用される名前です。**ナビゲーターの [総覧]** タブのスクリプト名は使用されません。

1. Analytics で、名前を変更するアナリティクス スクリプトを開きます。
2. アナリティクス ヘッダーの `//ANALYTIC` タグで、アナリティクス名を更新し、**開いているプロジェクトを保存**  をクリックします。
詳細については、「[ANALYTIC タグ](#)」を参照してください。
3. 名前を変更する必要があるすべてのアナリティクス スクリプトでこの手順を繰り返します。

アナリティクス タイプを指定して、アナリティクス スクリプトをグループ化する

アナリティクス スクリプトをタスクの個別の **[インポート]**、**[準備]**、**[分析]** 領域にグループ化する場合は、各スクリプトで対応するアナリティクス タイプを指定する必要があります。アナリティクス スクリプトをグループ化すると、スクリプト シーケンスを作成できますが、必須ではありません。詳細については、「ロボットでアナリティクス チェーンを複製する」 ページ 18を参照してください。

1. Analytics で、タイプを指定するアナリティクス スクリプトを開きます。
2. アナリティクス ヘッダーの `//ANALYTIC` タグで、アナリティクス タイプを追加し、**開いているプロジェクトを保存**  をクリックします。
詳細については、「[ANALYTIC タグ](#)」を参照してください。
3. アナリティクス タイプが必要なすべてのアナリティクス スクリプトでこの手順を繰り返します。

次にすべきこと

1 つ以上の自動プロセスのスクリプトを移行したら、データの移行を開始できます。「データの移行」 ページ 21

データの移行

重要

データの移行は、移行の前の段階を完了した場合にのみ行ってください。詳細については、"ロボットで AX リポジトリ構造を再作成する" ページ 11 と "スクリプトの移行" ページ 15 を参照してください。



AX リポジトリに次の一覧のデータの種類のいずれかが含まれている場合、データをロボットに移行しなければならない場合があります。データの本質によっては、既存のテーブルを物理的に AX から移行するよりも、スクリプトを使用して新しいデータのインスタンスをロボットにインポートした方が速く簡単で、適切な場合があります。

AX リポジトリに移行または再作成が必要なデータが含まれていない場合は、移行の次の段階に進むことができます。"ロボットで自動 AX プロセスを再作成する" ページ 33

データの種類	AX の場所
Analytics データ テーブル	データ サブフォルダー
Excel や *.csv などの入力ファイル	関連ファイル サブフォルダー

Analytics データ テーブルの再作成または移行

この一般的なガイドラインは、ロボットで Analytics データ テーブルを再作成するか、AX から移行するかを決定する際に役立ちます。

- **再作成** – アナリティクス スクリプト が実行されるたびに上書きされるデータ テーブルは、AX から移行するのではなく、ロボットで再作成できます。
- **移行** – アナリティクス スクリプト が実行されるたびにレコードが最後に追加されるデータ テーブルは移行します。

メモ

データテーブルを移行するときには、**データフォルダー**のすべてのデータテーブルがグループとして移行されます。このため、**データフォルダー**に上書きされるテーブルと最後に追加されるテーブルが含まれている場合、すべてのテーブルが移行されます。

最初にロボットを作成する

Analytics データテーブルを再作成する場合でも移行する場合でも、まず、ロボットでテーブルを格納するための適切なロボットを作成したことを確認する必要があります。まだ必要なロボットが作成されていない場合は、ここで作成する必要があります。詳細については、「ロボットを作成し、内容と自動プロセスを構造化する」ページ 13を参照してください。

ロボットでデータテーブルを使用する方法によって、テーブルを格納するための個別のロボットを構造化する方法が決まります。

想定される Analytics データテーブルの使用方法	ロボットの構造
データソースからインポートされたデータの単一のコピーを格納および保護し、他のロボットの複数の自動プロセスによってリンクできるようにします。	「Source Data」といった名前のロボットを作成します。さまざまな種類のソースデータに合わせて別個のコンテナが必要な場合は、複数のロボットを作成します。例：「SAP Source Data」、「Oracle Source Data」
同じ自動プロセスの一部、または複数の自動プロセスとして、後続のアナリティクススクリプトを入力を指定します。	自動プロセスに必要なすべてのスクリプトとデータテーブルを格納するロボットを作成します。例：「A_01_AP analytic tests」

データテーブルの再作成

アナリティクススクリプトが実行されるたびに上書きされる Analytics データテーブルは、AX から移行するのではなく、ロボットで再作成します。テーブルを作成するスクリプトがロボットで実行されるとすぐにテーブルが上書きされるため、この状況でテーブルを移行すると、作業が無駄になります。

たとえば、SAP または Oracle インストールから月次取引テーブルをインポートし、前月のテーブルを上書きする場合、最も簡単な方法は、テーブルを AX にインポートするために使用するのと同じアナリティクススクリプトを使用して、月次テーブルをロボットにインポートすることです。

同様に、自動分析が実行されるたびに上書きされるデータテーブルは、移行するのではなく、ロボットで分析を実行することで再作成します。

ロボットでデータテーブルを再作成するオプション

次のオプションのいずれかを使用して、ロボットでデータテーブルを再作成できます。

- 自動プロセス全体を実行する
- 自動プロセスの一部のみを実行する
- セットアップスクリプトを使用してデータテーブルを初期化する

自動プロセス全体を実行する

自動プロセスに関連付けられたスクリプトを移行した後に、スクリプトを格納するロボットでタスクを作成し、一時的にタスクを実行します。タスクが正常に実行された場合、スクリプトで出力されたすべてのデータテーブルがタスクを含むロボットで再作成されます。

このオプションではすべての分析が実行され、自動プロセスに関連付けられたすべての出力結果が作成されます。この時点でデータテーブルのみを再作成する場合は、次に示すその他のオプションのいずれかを使用します。

自動プロセスの一部のみを実行する

自動プロセスをいくつかの部分に整理した場合は、データテーブルを作成するスクリプトのみを実行するタスクを作成します。たとえば、自動プロセスのインポート部分、またはインポートと準備部分にあるスクリプトのみを実行します。

タスクが正常に実行された場合は、インポートされたデータ、またはインポートおよび準備されたデータが格納されたデータテーブルが、タスクを含むロボットで再作成されます。出力結果は作成しません。

セットアップスクリプトを使用してデータテーブルを初期化する

「Source Data」ロボットなどのインポートされたデータ用に集中管理された場所を作成した場合は、セットアップアナリティクススクリプトを作成して、ロボットでデータテーブルを1回だけ初期化できます。

Analytics で、ACCESSDATA や IMPORT ODBC などのデータをインポートするために使用するすべての ACLScript コマンドを収集する単一のアナリティクススクリプトを作成します。スクリプトを「Source Data」ロボットにコミットし、スクリプトを実行するタスクを作成します。タスクは一時的に実行するか、夜間に実行されるようにスケジュールできます。タスクが正常に実行された場合は、インポートされたデータが格納されたデータテーブルが「Source Data」ロボットで再作成されます。

メモ

セットアップスクリプトの単一のインポートが失敗した場合は、タスクが失敗し、その後の処理は中断されます。多数のインポートを実行する場合は、複数のセットアップスクリプトに分け、各スクリプトに個別のタスクを作成できます。このようにすると、1回インポートが失敗したことで、他のインポートが中断されることがなくなります。

データ テーブルの移行

アナリティクス スクリプト が実行されるたびにレコードが最後に追加される Analytics データ テーブルは、ロボットで再作成するのではなく、AX から移行します。この状況では、テーブルに格納された、蓄積された履歴データを保持するためにテーブルの移行が必要です。

たとえば、SAP または Oracle インストールから月次取引テーブルをインポートし、累積する年次テーブルの最後にレコードを追加する場合は、年次テーブルをロボットに移行する必要があります。

同様に、自動分析が実行されるたびにレコードが最後に追加されるデータ テーブルは、再作成するのではなく、ロボットに移行します。

ロボットにデータ テーブルを移行する手順

Galvanize サポートは、AX の履歴データ テーブルをロボットに移行するのを支援するためにスクリプトを提供しています。最初のスクリプトは AX のデータ テーブルをネットワーク上の中間の場所にエクスポートします。2 番目のスクリプトは中間の場所のデータ テーブルをロボットにインポートします。

AX とは異なり、ユーザー インターフェイスから Analytics テーブルを直接ロボットにアップロードできないため、移行スクリプトが必要です。

メモ

スクリプトは個別の AX フォルダーレベルと個別のロボット レベルで動作します。エクスポートするデータ テーブルが格納された各フォルダーと、データ テーブルをインポートする各ロボットで、スクリプトを繰り返し実行する必要があります。

データ テーブルの移行手順

1. "ネットワーク上で中間の場所を作成する" 下
2. "AX で EXECUTE コマンドを有効にする" 見開きページ
3. "データ フォルダーの内容を整理する" 見開きページ
4. "Galvanize コミュニティから移行スクリプトをダウンロードする" ページ 27
5. "移行スクリプトを使用して、Analytics プロジェクトを AX にインポートする" ページ 27
6. "AX でエクスポート スクリプトを実行する" ページ 27
7. "移行スクリプトをロボットにコミットする" ページ 28
8. "ロボットでタスクを作成し、インポート スクリプトを実行する" ページ 29
9. "別の AX フォルダーおよびロボットで手順を繰り返す" ページ 30

ネットワーク上で中間の場所を作成する

AX のデータ テーブルをロボットに移行するときに履歴データ テーブルを格納するための一時フォルダーを作成します。自分のコンピューター上でフォルダーを作成できますが、移行するデータの量が大きい場合

は、一般的にネットワーク上のフォルダーを使う方が便利です。

フォルダーは、該当するサーバーで AX とロボット エージェント Windows サービスを実行するサービスアカウントからアクセスできる必要があります。いずれのアカウントもフォルダーへのフルコントロールアクセス権が必要です。Windows サービスの名前：

- ACL Analytics Exchange Service
- ロボット エージェント

AX で EXECUTE コマンドを有効にする

AX で EXECUTE コマンドが有効でない場合は、有効にする必要があります。

注意

デフォルトでは、AX で EXECUTE コマンドは無効です。通常、コマンドを無効にする場合は、履歴データテーブルの移行が完了した後もう一度無効にしてください。

1. ブラウザーで、AX Server Configuration Web アプリケーションにログインします。
デフォルトでは、AX Server Configuration Web アプリケーションは、<https://<axサーバー名>/aclconfig> にあります。
2. [サーバー > 設定] の下で **EXECUTE コマンドを許可しますか?** の [はい] をクリックします。
3. **サーバー設定の更新** をクリックします。

データフォルダーの内容を整理する

重要

ロボットで移行先ロボットに必要なテーブルについて考えてください。**データフォルダー**を整理した後、同じ移行先ロボットにあるテーブルのみが残ります。

AX でエクスポート スクリプトを実行する前に、ロボットの同じ移行先ロボットに必要なテーブルのみが、エクスポートする**データフォルダー**に含まれていることを確認してください。

エクスポートおよびインポート スクリプトは一括処理を使用して、**データフォルダー**、一時保存フォルダー、ロボットの単一の移行先ロボット間で**グループ**としてテーブルと関連付けられたデータ ファイルをコピーします。個別のテーブルをエクスポートまたはインポート対象として選択することはできません。

データフォルダーのすべてのテーブルが単一のロボットと一致する場合、これ以上の整理は必要ありません。**データフォルダー**のテーブルと単一のロボットが完全に一致しない場合は、エクスポートする前に一致させる必要があります。

データフォルダーとロボットとの間でテーブルを一致させる方法

状況に応じて、次の方法のいずれかを使用して、**データフォルダー**とロボットとの間でテーブルを一致させることができます。

- ステージング データ フォルダを作成する** – エクスポートする前にデータ テーブルをステージングするための新しいコレクションとフォルダを作成します。単一の移行先ロボットと一致するテーブルをステージング データ フォルダにコピーし、そこからエクスポートします。
 一定期間の間 AX とロボットを並列で実行し、既存のデータ フォルダの内容をそのままにしておきたい場合には、この方法を使用します。
- 既存のデータ フォルダを編集する** – エクスポートする前に、既存のデータ フォルダから一致しないテーブルを削除または移動します。単一の移行先ロボットと一致しないすべてのテーブルを削除または移動します。

注意



既存のデータ フォルダに対して必要な修正を行うと AX の自動プロセスが中断される場合にのみ、この方法を使用してください。

データ フォルダで異なるテーブルおよびレイアウトの種類を処理する方法

重要

AX でエクスポート スクリプトを実行する前に、データ フォルダに表示できるテーブルとレイアウトの種類に関する次の情報を確認してください。既存のデータ フォルダを編集する場合は、必要に応じてテーブルやレイアウトを削除または移動してください。

テーブルレイアウトの種類	データ フォルダ要件
 スタンドアロン テーブル	移行先ロボットに配置する単独のテーブルのみを含めます。
 共有テーブル	移行先ロボットに配置する共有テーブルのみを含めます。 AX 共有テーブル機能はロボットに移行されません。
 マスター テーブル	移行先ロボットに配置するマスター テーブルのみを含めます。 テーブル間のリンク関係は移行されず、ロボットで再作成することもできません。
 リンクされたテーブル	リンクされたテーブルをエクスポートする場合は、一時保存場所にある他のテーブルのように、リンク解除されたテーブルと関連付けられたデータ ファイルになります。この場合、想定通りの結果にならない場合もあります。 テーブルのリンクをロボットでも維持する場合は、AX のデータ フォルダからリンクされたテーブルを削除し、ロボットでリンクを再作成します。
	データ フォルダからテーブルレイアウトを削除します。スクリプトでは、すべてのデータ テーブルがソースデータ ファイルに関連付けられている必要があります。

テーブルレイアウトの種類	データ フォルダー要件
スタンドアロンレイアウト	レイアウトについては、テーブルの 概要 タブの データソース プロパティに、「このデータ定義にはデータソースが関連付けられていません」と表示されます。
 マスターレイアウト	
 リンクレイアウト	

Galvanize コミュニティから移行スクリプトをダウンロードする

1. 次のサイトにアクセスします。<https://community.wegalvanize.com/s/article/Project-migration-from-AX-to-Robots?language=ja>
2. **添付ファイル**の下で、ダウンロードする **[Table_Migration]** Analytics プロジェクトをクリックします。

メモ

プロジェクトが表示されない場合は、HighBond アカウント資格情報を使用して、Galvanize コミュニティにログインしなければならない場合があります。

移行スクリプトを使用して、Analytics プロジェクトを AX にインポートする

1. AX Client を開いてログインします。
2. **Server Explorer** で、エクスポートする履歴データ テーブルを含むフォルダーを選択します。
3. **[ファイル > インポート]**を選択して、**[Table_Migration]** Analytics プロジェクトをダウンロードした場所に移動します。
4. プロジェクトを選択して、**[開く]**をクリックします。
5. **[インポート先の選択]**ダイアログボックスで、正しいフォルダーが選択されていることを確認し、**[インポート]**をクリックします。

プロジェクトがインポートされ、分析アプリフォルダーに追加されます。

AX でエクスポート スクリプトを実行する

1. **[Table_Migration]** 分析アプリで、**[Data Tables Export]** スクリプトを選択し、**[アナリティクス > 実行]**を選択します。

メモ

Data Tables Import] スクリプトは、AX ではなく、ロボット用です。

2. **実行**] ダイアログボックスで **新しいセットを作成**] をオンにして、**Export destination** などの新しい入力値セットの名前を入力して、**次へ**] をクリックします。
3. **テーブルファイル共通フォルダーパス**] で、データファイルに作成する一時保存フォルダーへのパスを入力し、**次へ**] をクリックします。
 - フォルダーが AX と同じサーバーにある場合は、**C:\Temp_data_files_storage** などのローカルファイルパスを指定します。
 - ネットワークのフォルダーにファイルをエクスポートしている場合は、**\\<サーバー名>\Temp_data_files_storage** などの UNC パスを指定します。
4. **実行**] をクリックします。

結果 – データ サブフォルダーのテーブルが保存フォルダーにエクスポートされます。

メモ

UNC パスを指定するときにエクスポート スクリプトが動作しない場合は、AX がインストールされているサーバーに一時保存フォルダーを作成して、**テーブルファイル共通フォルダーパス**のローカルファイルパスを指定します。

この方法では、移行プロセスの次の段階で、一時保存フォルダーのデータテーブルを手動でコピーしなければならない場合があります。

移行スクリプトをロボットにコミットする

1. **Table_Migration Analytics** プロジェクトを開きます。
2. Analytics メイン メニューから、**ファイル > スクリプトのコミット**] を選択します。
3. 必要に応じて、**送信先の選択**] ダイアログボックスで、該当する HighBond インスタンスをダブルクリックします。

ロボット コレクション] と既存のロボットの一覧が表示されます。

4. ロボットのリストで、データテーブルの適切な移行先ロボットを選択し、**OK**] をクリックします。
5. **Commit data table migration scripts** などの簡潔なコミット メッセージを入力し、**OK**] をクリックします。

ロボットでは、開発モードでスクリプトがコミットされます。

6. **スクリプトのコミットが成功しました**] ダイアログボックスで、2 番目のリンクをクリックして、ロボット アプリで新しくコミットされたスクリプトを調べます。

スクリプト バージョン] タブが開き、コミットされたバージョンのスクリプトが表示されます。

7. スクリプト バージョンを選択します(**vn**)。

バージョンの詳細] サイド パネルが開きます。 **スクリプト バージョンの変更**] の下に、個別のアナリティクス スクリプトと補助スクリプトの名前が一覧表示されます。


- Analytics で、**OK** をクリックし、**[スクリプトのコミットが成功しました]** ダイアログボックスを終了します。

ロボットでタスクを作成し、インポート スクリプトを実行する

- タスク** タブを選択し、**タスクを作成** をクリックします。
タスク デザイナーが開きます。
- タスクの名前(例:**Import data tables**)を入力し、**保存** をクリックします。
- Data Tables Import** で **アナリティクスのアクティブ化** を選択します。

メモ

Data Tables Export スクリプトは、ロボットではなく、AX 用です。

- 下矢印  をクリックして、パラメーター セクションを展開します。
- テーブルファイル共通フォルダーパス** で、データ ファイルに作成する一時保存フォルダーへのパスを入力します。
 - フォルダーがロボット エージェントと同じサーバーにある場合は、**C:\Temp_data_files_storage** などのローカル ファイル パスを指定します。
 - ネットワークのフォルダーからファイルをインポートしている場合は、**\\<サーバー名>\Temp_data_files_storage** などの UNC パスを指定します。
- ページの下部で **最後にスキップ** をクリックして、**タスクを確認し作成する** をクリックします。
- タスク** タブで、作成したタスクを選択し、**[...] > 今すぐ実行** をクリックします。

結果 – 一時保存フォルダーのデータ テーブルがロボットにインポートされます。**タスク** タブまたは **タスクの実行** タブのいずれかでタスクの進捗を監視できます。

- 入力/出力** タブを選択して、インポートされたデータ テーブルを表示します。

他のテーブル セクションにテーブルが表示されます。個別のテーブルを選択し、**テーブルの詳細** サイドパネルを開きます。

データ テーブルが正常にロボットにインポートされたことを確認したら、一時保存フォルダーの内容全体を削除できます。

メモ

UNC パスを指定するときにインポート スクリプトが動作しない場合は、ロボット エージェントがインストールされているサーバーに一時保存フォルダーを手動でコピーして、**テーブルファイル共通フォルダーパス**のローカル ファイル パスを指定します。

一時保存フォルダーをコピーして貼り付けるか、FTP を使用できます。一時保存フォルダーをコピーできない場合は、IT 部門のサポートを依頼してください。

別の AX フォルダーおよびロボットで手順を繰り返す

必要に応じて、別の AX データ フォルダーとロボットでもデータ テーブルの移行プロセスを繰り返します。

ロボットで計画されたデータ構造と一致させるには、別の AX データ フォルダーから同じロボットにデータ テーブルを移行できます。各エクスポート処理の前に一時保存フォルダーを空にしてください。

- **AX でスクリプトをコピーする** – **Table_Migration** 分析アプリを AX フォルダー間でコピーすると、スクリプトを簡単に複製できます。**Table_Migration** プロジェクトを繰り返しインポートする必要はありません。

メモ

データ フォルダーを使用している場合は、スクリプトをコピーする必要がありません。必要に応じてステージング データ フォルダーの内容を更新し、同じ場所からエクスポート スクリプトを実行します。

- **一時保存フォルダーを空にする** – 前のグループのデータ テーブルが正常にロボットにインポートされたことを確認したら、一時保存フォルダーの内容全体を削除します。移行スクリプトは、一時保存フォルダーの複数のデータ フォルダーからデータ テーブルを蓄積するように設計されていません。
- **スクリプトをロボットに再コミットする** – **Table_Migration Analytics** プロジェクトのスクリプトを、使用する各ロボットにコミットする必要があります。ロボット間でのスクリプトのコピーはサポートされていません。

ロボットでリンクされたテーブルを作成する

AX でマスターおよびリンク データ テーブルを使用し、ロボットでも引き続きこれらのテーブルを使用したい場合は、ロボットでリンク関係を再作成する必要があります。設定については、「[データ テーブルの共有とリンク](#)」を参照してください。

非 Analytics 関連ファイルをアップロードまたは移行する

ロボットで Excel や *.csv などの非 Analytics 関連ファイルを入力するには、次の 2 つの方法があります。

- AX からロボットにファイルを移行する
- ネットワーク上の場所からファイルをアップロードする

ファイルのアップロードに必要な手順はほとんどありません。ファイルの有無に応じて両方のオプションを使用しなければならない場合があります。使用方法に関係なく、必ず各ファイルの最新バージョンをロボットに入力します。

AX からロボットにファイルを移行する

直接 AX からロボットに関連ファイルを移行することはできません。AX とロボットの両方からアクセス可能な中間の場所(自分のコンピューターなど)に、AX の関連ファイルをエクスポートします。

この手順では、中間の場所として自分のコンピューターを使用することを前提としています。

1. エクスポートされたファイルを保存するためのフォルダーをコンピューターで作成します。
2. **Server Explorer** で次のいずれかを実行します。
 - **関連ファイル** フォルダーを選択して、フォルダーのすべてのファイルをエクスポートする
 - **Ctrl** キーを押しながらクリックして**関連ファイル** フォルダーの個別のファイルを選択する
3. **ファイル > エクスポート**]を選択します。
4. **[エクスポート]** ダイアログ ボックスで、**[エクスポートしたファイルで作業しますか?]** をオフにします。
5. **参照**]をクリックして、ファイルを保存するために作成したフォルダーを選択し、**OK**]をクリックします。
6. **OK**]をクリックして、ファイルをエクスポートします。
指定した場所にファイルがエクスポートされます。
7. 移行する他の**関連ファイル** フォルダーのファイルでもこの手順を繰り返します。
8. 次の手順を使用して、ファイルのアップロードを続けます。

ネットワーク上の場所からファイルをアップロードする

最新バージョンの関連ファイルがローカルまたはネットワークの場所に保存されている場合は、直接ロボットにアップロードできます。

メモ

関連ファイルは、サイズが 1 GB 未満かつ、許可されたファイルの種類を持っていないとなりません。許可されたファイルタイプの一覧については、「[非 Analytics 関連ファイルで許可されたタイプ](#)」を参照してください。

1. Launchpad ホームページ(www.highbond.com) の **自動化**]の下で、ロボットアプリをクリックします。
サインインしていない場合は、HighBond にサインインする必要があります。
2. ロボットのダッシュボードから、関連するファイルのアップロード先ロボットをクリックします。
3. ロボットの右上隅で、**開発モード**]トグルをクリックし、開発モードに切り替えます。
本番モード ヘッダーは明るい背景で、開発モード ヘッダーは暗い背景です。
4. **入力/出力**]タブでは、次のいずれかを実行します。
 - **ドラッグ&ドロップ** – お使いのローカル ファイル システムから 1 つ以上のファイルを選択し、**ドラッグ&ドロップ**]アップロード セクションにこれらをドラッグします。
 - **ファイルを選択** – **ファイルを選択**]をクリックし、ローカル ファイル システムからアップロードするファイルを開覧し、これを選択し、**開く**]をクリックします。

結果 – ファイルが [入力/出力] タブの [ファイル] にアップロードされ、表示されます。

次にすべきこと

1 つ以上の自動プロセスのデータを移行すると、"ロボットで自動 AX プロセスを再作成する" ページ 33 に進むことができます。

ロボットで自動 AX プロセスを再作成する

重要

移行に関するすべての前の段階を完了した場合にのみ、ロボットでの自動プロセスの再作成を進めてください。詳細については、「移行の実行: 推奨される方法」ページ 6を参照してください。



組織のスクリプトとデータを移行または再作成した後に、ロボットで自動 AX プロセスを再作成できます。各自動プロセスで、ロボット内でタスクを作成します。タスクを使用して、実行するスクリプトを指定し、スクリプトの入力パラメーターを指定して、スケジュールを作成します。

各自動プロセスのロボット タスクを作成する

各自動プロセスについて、まず開発モードでタスクを作成し、プロセスをテストして正常に動作することを確認できるようにします。

詳細については、「[ロボットでのタスクの作成とスケジューリング](#)」を参照してください。

1. Launchpad ホームページ(www.highbond.com)の **自動化** の下で、ロボットアプリをクリックします。
サインインしていない場合は、HighBond にサインインする必要があります。
2. ロボットのダッシュボードから、タスクを含めるロボットをクリックします。
3. ロボットの右上隅で、**開発モード** トグルをクリックし、開発モードに切り替えます。
本番モード ヘッダーは明るい背景で、開発モード ヘッダーは暗い背景です。
4. **タスク** タブで **タスクを作成** をクリックします。
タスク デザイナー が開きます。
5. 自動プロセスを識別するタスクの名前を入力し、**保存** をクリックします。
6. **タスク デザイナー** を進め、タスク設定を構成します。
 - a. 実行するスクリプトを選択し、必要なパラメーター値を入力します。
何らかの理由で値を変更しないかぎり、AX プロセスのパラメーター値を複製します。

- b. 省略可能。タスクをスケジュールします。
一時的にタスクを実行するため、スケジュールの作成はスキップできます。スケジュール機能をテストする場合にはスケジュールを作成できます。
 - c. 省略可能。タスクが失敗した場合に電子メール通知を受信する受信者を 1 人以上選択します。
7. タスクの構成設定をレビューし、**タスクを確認し作成する**]をクリックします。
結果 – 指定した設定を使ってタスクが作成されます。


一時的にタスクを実行してテストする

開発モードで各タスクをテストし、発生する問題のトラブルシューティングを行います。

1. **タスク**]タブで、作成したタスクを選択し、**[...] > 今すぐ実行**]をクリックします。
タスクが起動します。その進捗を監視し、**タスク**]タブまたは**タスクの実行**]タブのいずれかで結果を表示できます。
2. **タスクの実行**]タブで、タスクが完了したら、タスクのエントリをクリックします。
タスクの実行詳細]サイドパネルが開くと、**//RESULT** アナリティクス タグで生成された出力テーブルとファイルの一覧を含む、タスクの実行に関する詳細な情報が表示されます。
3. 出力結果をレビューし、正しいテーブル、ログ、またはファイルが出力されたことを確認します。
出力結果の内容の表示については、「[ロボット テーブル、ログ、ファイルの表示](#)」を参照してください。
4. **入力/出力**]タブで、出力データ テーブルをレビューし、正しいテーブルが生成されたことを確認します。
//DATA アナリティクス タグによって生成されたテーブルは、**その他のテーブル**]セクションの一覧に表示されます。データ テーブルの内容の表示については、「[ロボット テーブル、ログ、ファイルの表示](#)」を参照してください。
5. タスクが失敗した場合、または出力テーブルまたはファイルが見つからない場合は、「基本的なトラブルシューティングの手順」下で問題が発生している可能性があります。
6. トラブルシューティングを行ってもタスクが引き続き失敗する場合は、Galvanize サポートに連絡して支援を受けてください。

基本的なトラブルシューティングの手順

問題の種類	考えられる原因、または実施すべき対応
全般	タスクの実行詳細]サイドパネルで 結果]状態を確認します。場合によっては、タスクが失敗した理由を説明するメッセージが表示されます。

問題の種類	考えられる原因、または実施すべき対応
	ログファイルが出力された場合、 表示]をクリックしてログを調べます。ログには、アナリティクススクリプトが失敗した理由を示す、赤い X  印 が付けられたエントリが 1 つ含まれています。
タスク入力	<p>タスクがリンクされたテーブルを入力として使用する場合は、入力/出力]タブの リンクされたテーブル]セクションにテーブルが存在することを確認します。</p> <p>詳細については、「データテーブルの共有とリンク」を参照してください。</p> <p>タスクが Excel などの非 Analytics 関連ファイルを入力として使用する場合は、入力/出力]タブの ファイル]セクションにファイルが存在することを確認します。</p> <p>詳細については、「非 Analytics 関連ファイルの管理」を参照してください。</p>
アナリティクス ヘッダー	<p>Analytics で、タスクで実行されるすべてのアナリティクス スクリプトのアナリティクス ヘッダーを確認します。//RESULT、//DATA、//FILE などのすべての必須のアナリティクス タグが存在し、正しい形式であることを確認します。</p> <p>詳細については、「アナリティクス ヘッダーおよびタグ」を参照してください。</p>
ロボット エージェント サービス	<p>ロボット エージェント がインストールされている Windows サーバーで、ロボット エージェント サービスが実行されていることを確認します。停止している場合は、サービスを起動し、タスクを再実行します。</p>

スクリプト バージョンを本番モードにアクティブ化する

タスクが正しく実行されたら、タスクで使用されるスクリプト バージョンを本番にアクティブ化します。

詳細については、「[ロボットの開発モードと本番](#)」を参照してください。

1. **スクリプト バージョン**]タブで、テストしたタスクで使用されるスクリプト バージョンを選択します。
2. **バージョンの詳細**]パネルで、**バージョンをアクティブ化**]をクリックします。
3. 省略可能。バージョン履歴]にコメントを入力し、何をアクティブ化するかを説明します。

ヒント

スクリプト バージョンをアクティブ化する際に有益なコメントを入力しておく、後で自動分析をレビューする際のたいへん役立つベスト プラクティスになります。

4. **アクティブ化 versionNumber**]をクリックします。

結果 – スクリプトバージョンがアクティブ化され、本番で利用可能になります。本番の **スクリプト**]タブでは、スクリプトバージョンで個々のアナリティクススクリプト、および補助スクリプトが一覧化されます。

本番でロボット タスクを作成してスケジュールする

最後に、本番でロボット タスクを作成してスケジュールします。

詳細については、「[ロボットでのタスクの作成とスケジューリング](#)」を参照してください。

1. ロボットの右上隅で、**開発モード**]トグルをクリックし、本番に切り替えます。
本番モード ヘッダーは明るい背景で、開発モード ヘッダーは暗い背景です。
2. **タスク**]タブで **タスクを作成**]をクリックします。
タスク デザイナーが開きます。
3. 自動プロセスを識別するタスクの名前を入力し、**保存**]をクリックします。
4. **タスク デザイナー**を進め、タスク設定を構成します。
 - a. 実行するスクリプトを選択し、必要なパラメーター値を入力します。
何らかの理由で値を変更しないかぎり、AX プロセスのパラメーター値を複製します。
 - b. タスクをスケジュールします。
何らかの理由でスケジュールを変更しないかぎり、AX プロセスのスケジュールを複製します。
 - c. タスクが失敗した場合に電子メール通知を受信する受信者を 1 人以上選択します。
5. タスクの構成設定をレビューし、**タスクを確認し作成する**]をクリックします。
結果 – 指定した設定を使ってタスクが作成されます。
6. 一時的にタスクを実行してテストします。
詳細については、「[一時的にタスクを実行してテストする](#)」 ページ 34を参照してください。
タスクが失敗した場合、または出力テーブルまたはファイルが見つからない場合は、正しいスクリプトバージョンを開発モードからアクティブ化したことを確認します。タスクが引き続き失敗する場合は、「[基本的なトラブルシューティングの手順](#)」 ページ 34を参照するか、Galvanize サポートに連絡して支援を受けてください。

次にすべきこと

ロボットで 1 つ以上の自動プロセスを作成すると、「移行後の作業」 ページ 37に進むことができます。

移行後の作業

組織のスクリプトとデータを移行または再作成し、ロボットで自動プロセスを再作成した後、移行後の作業に進みます。



タスク/作業	詳細
ロボット エージェントがインストールされているサーバーに Direct Link をインストールする(該当する場合)	AX で Direct Link を使用して SAP データにアクセスしている場合： <ul style="list-style-type: none">ロボット エージェントで動作するように Direct Link をインストールするDirect Link ではなく、SAP 版 ACL コネクタ(SAP コネクタ) の使用に切り替える SAP への接続 を参照してください。
Analytics で出力結果の表示をテストする	「テーブル、ログ、およびファイルの表示」 を参照してください。
ロボットと AX で出力結果を比較する	一定期間の間、AX とロボットを並列で実行し、各アプリケーションで同じ自動プロセスの出力結果を比較してください。 ロボットでプロセスのロジックを変更していなければ、出力結果が同じになるはずですが。
ロボット アプリと個別のロボットのユーザーと管理者アクセスを設定する	「ロボットアプリのアクセス許可」 を参照してください。
レガシー AX データの計画を策定する	AX インストールには、大量のレガシーデータが含まれている場合があります。組織のポリシーや管轄地域の法規制によっては、指定期間の間、アクセス可能なデータのコピーを保持することが義務付けられている場合があります。 組織内の適切な関係者および Galvanize の担当者 と協力し、レガシー AX データのアーカイブまたは削除のための適切なプロセスを計画してください。

このページは意図的に空白のままにしています

移行に関する詳細

移行の利点

ロボットは AX に代わる次世代のソリューションです。いずれの製品も、組織のデータ中心のガバナンス、リスク、コンプライアンス活動の一環としてのデータ取得と分析の自動化という、同じ基本機能を備えています。

Galvanize は、ロボットと、クラウドでのデータ分析のための新しい HighBond Command Language (HCL) を含む関連付けられた機能の継続的な開発と拡張に重点的に投資しています。2020 年 9 月、Galvanize は、次の AX のサポート終了計画を発表しました。

- 2021 年春 – AX の最終リリース。メンテナンス リリースのみ
- 2023 年 1 月 1 日 – AX のサポート終了

ロボットと AX の比較

ロボットと AX の主な違いは次の概要のとおりです。組織に関する詳細または具体的なご質問については、Galvanize アカウント担当者までお問い合わせください。

機能分野	ロボット	AX
ユーザー インターフェイス	直感的な設計、使いやすいワークフローを備えた最新の Web ベース インターフェイス	最適なレイアウトや直感的なワークフローが少ない、古いクライアント サーバー インターフェイス
インストール、管理、アップグレード	インストール、管理、アップグレードに関連する技術的な複雑さが大幅に削減 サードパーティが開発したコンポーネントへの依存度が低く、機能強化やセキュリティ更新の問題が減る	AX と関連付けられたデータベースのインストール、管理、アップグレードに関連する技術的な複雑さと負担が大きい 独自の機能強化やセキュリティ更新スケジュールがあるサードパーティが開発した内部コンポーネント (Apache TomEE、Java、PostgreSQL、Oracle など) に依存
テスト環境	統合された開発モードと本番モードにより、本番移行前に自動分析の個別テストが可能	比較可能な機能なし
スクリプトのバージョン管理	スクリプトのバージョン履歴。前のバージョンのスクリプトに容易にロールバック	比較可能な機能なし

移行に関する詳細

機能分野	ロボット	AX
	可能	
スクリプト言語	従来の ACL スクリプトまたは新しい Python ベースの HighBond Command Language(HCL) のオプション 2021 年にリリース予定の HCL	従来の ACL スクリプトのみ
カスタマイズ可能なスクリプト シーケンス	デフォルトでは、単一のロボット タスクで複数のアナリティクススクリプトを連続して実行 比較可能なチェーン機能は開発予定です	チェーン型のアナリティクススクリプト
製品アーキテクチャ	簡素化された製品アーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"> すべてのユーザーおよび管理者の活動のための単一の統合されたクラウド プラットフォーム 任意のオンプレミス データ処理コンポーネント 	複数のコンポーネント製品アーキテクチャ <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク ベースのサーバー コンポーネントと関連付けられたデータベース デスクトップ クライアント Web ベースのクライアント Web ベースの管理者ユーティリティ
	クラウド/オンプレミス ハイブリッド: <ul style="list-style-type: none"> タスクのスケジューリングと管理で Web インターフェイスの利点を活用しながら、Windows ネットワークのセキュリティ内に組織データとデータ処理を維持するオプション。 	オンプレミスのみ: <ul style="list-style-type: none"> AX クライアント サーバー アーキテクチャ全体はネットワークにインストールされます。
処理能力とロードバランシング	処理能力とロードバランシングを強化する複数のロボット エージェント	処理能力とロードバランシングを強化する AX Engine Nodes
問題の改善	HighBondResults アプリへの統合アクセスで問題の改善	比較可能な機能なし
視覚化とダッシュボード	HighBondResults および Storyboards アプリへの統合アクセスで視覚化とダッシュボードを作成	AX Web Client での視覚化。ダッシュボード機能なし
事前に用意されたコンテンツ	Robotics ツールキットへのアクセス(事前構築済みデータ統合および分析スクリプト パッケージ)	比較可能な機能なし

移行に必要な時間と工数

AX からロボット への移行に必要な時間と工数は、現在の AX インストールの複雑さと、実行している自動プロセスの数によって異なります。既に移行されたお客様では、移行プロジェクトに 1 ~ 3 週間の期間を要しました。

Direct Link を使用して SAP データにアクセスする方法から SAP コネクターを使用する方法に変更する計画の場合は、さらに時間がかかることを考慮して予算を策定してください。この変更を移行と同時に実施する必要はありません。ロボットでも引き続き Direct Link を使用し、後から SAP コネクターに変更できます。